**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選会員及び一般部門　エッセイ募集：2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。※パワーポイント使用可。【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　韓国と私**

**お名前：　島津　孝**

(下記より本文をご記入ください)

1988年に初めて韓国に行きました。そして、その年は８８（パルパル）オリンピックで韓国も大きく近代化しようとしている発展の時期でした。半年くらい滞在する機会があり、韓国の文化に触れる事となりました。その当時は日本の昭和初期のような街の様子を覚えています。最初に感じたのは仁川国際空港がキムチの匂いだったこと。また、車に乗ると激しいクラクション合戦と交通渋滞で特に合流地点では我先へと自分の車の先端を如何に他の車より先に入れるかのつばぜり合いでごった返していた様子を思い浮かべました。また、バスに乗りたくてもバスは素通りしていくし、かと思えばアジュマ（おばさん）が通り過ぎようとするバスのドアを激しく叩いてバスに乗り込んでいく雄姿を見たり、この国には住めないな～という印象でした。

しかし、住んでみているうちに感動的な場面も多くみられました。

まず、びっくりしたのは公衆電話です。今は携帯電話の時代なので若い人はわからないと思いますが、日本では公衆電話を使うと当然受話器を元に戻して出てきます。しかし、韓国では通話が終わっても受話器を横に置いたまま出てくるのです。何故なのかと思ったら、例えば100円入れてまだ料金残金があるのでそのままにして次の人の為に置いておくのです。テレホンカードでもあと残り僅かのカードは残してくれるのです。また、驚いたのはバスに乗った時、席が満席で立って乗っていたら、座っている若い男性が私の持っているバックを奪って？膝の上に乗せて持ってくれるのです。最初はひったくりか！とびっくりしましたが、皆同じようにしているのです。ワァー、韓国は根っからの「為に生きる」民族なんだなーと感銘を受けました。

そんな場面を見てからは韓国の人たちの見方が変わりました。初めて会った人でも自分の家に招待して家族のように接してくれ沢山の愛情をかけてくれます。本当に韓国に住んでよかったなーと思いました。半年が過ぎて日本に帰らなければならないことがとても残念に思ったものです。日本にいる時は韓国に対しての偏見は沢山ありました。しかし、百聞は一見にしかず。体験して自分の中の壁が大きく崩れた経験をさせていただきました。